

心を新たに

シリーズ・パウロ

第32回

ローマの信徒への手紙

- 未だ見ぬローマの人たちへの熱いメッセージ
- すべての人間は(ユダヤ人も異邦人も), イエス・キリストを信じるだけで罪赦され, 永遠に神の子とされる
- 「福音」は単なる教えではなく, 「信じるすべての者に救いをもたらす**神の力**」である
- 信じるだけで救われるのなら, 人間は何もする必要がないのか?

人間がすべきこと(12:1)

- 「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」

神への礼拝

- 律法において礼拝とは犠牲を献げること
 - きよい動物をいけにえとして献げる
- イエス・キリストが完全ないけにえとなられた
 - 「神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。」(3:25)
- 何かを献げるのではなく、自分自身を献げる
 - 「自分の体を聖なる生けるいけにえとして」

聖なる生けるいけにえ

- 「聖なる」
 - 罪のない生活を送る
- 「生けるいけにえ」
 - 死んだ動物ではなく、生きた行動
- 「自分の体」を献げる
 - 神の願いを実行すること(→2節へ)
- 「これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です」
 - 礼拝に出席することだけが礼拝ではない！

「生けるいけにえ」となるために

- 「あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。」＜12:2＞

この世に倣ってはならない

- 「この世」は神の御心とはかけ離れている
 - 「この世を支配する者、かの空中に勢力を持つ者、すなわち、不従順な者たちの内に今も働く霊に従い、過ちと罪を犯して歩んでいました。」
＜エフェソ2:2＞
- この世は誘惑に満ちている
 - 「世も世にあるものも、愛してはいけません。なぜなら、すべて世にあるもの、肉の欲、目の欲、生活のおごりは、御父から出ないで、世から出るからです。」
＜1ヨハネ2:15～16＞

神の御心を知る

- 「神の御心」は「選択」よりも「あり方」にある
 - 「どちらを選べばよいでしょうか」というのはその時点で既に選択肢を決定している
 - 特別な時にではなく**普段の生活や生き方**
- 「神の御心」の判断基準
 - 善いか悪いか
 - 神に喜ばれるか
 - 完全であるか：一時的・部分的ではなく

心を新たにして

- 「神の御心」を知るためには「心を新たにして自分を変えていただく」かなければならない
 - 変えるのは神の役割
 - わたしたちの役割は「心を新たにすること」
- この世の影響を常に強く受けている
- 神の働きを受け入れるための準備
- いつも新鮮で真っ白な心をもっていること